

心をつなごう **日本**

# 人間の安全保障 被災地に

極限下、子供ら弱者の尊厳を守る

国連大使などを務めた高須幸雄・東京大学特任教授が特定非営利活動法人(NPO法人)「人間の安全保障フォーラム(HSF)」を設立、東日本大震災の被災地で「個人の尊厳」に重点を置いた支援活動に奮闘している。高須さんは、紛争地や途上国での支援活動の指針としての「人間の安全保障」の考え方を世界に広めた一人。この概念が被災地支援にこそ必要、と実践している。(長戸雅子)

「人間の安全保障」は、1ソボ紛争などに伴う難民支援994年に国連開発計画(UNDP)が報告書で「国土の安全でなく人々の安全のため」を訴えた中、高須さんは外務省で「人間の安全保障」を

担当、国連大使時代も含め、始まりだ。途上国や紛争地などでも苦しむ個人に焦点をあてたもので、日本は99年に「人間の安全保障」の整備など生活改善に取り組んだ。一極限状況下で最も被害を受けるのは子供、老人、



高須幸雄さん

に設置し、2004年までに約290億円の安全保

## 元国連大使・高須さんが旗振り



支援センターで女性被災者に送る裁縫箱セットを作るボランティア=8月6日、宮城県登米市(ボランティアの石本めぐみさん撮影)

退官して昨年夏に約10年ぶりに日本に腰を落ち着いたが、避難所にいる東日本大震災被災者の姿にショックを受けた。「紛争地とは比べられない」。HSFの4月の設立に

伴い、仙台市にアパートを借りて拠点とし、仕事を持つ人が体ひとつで被災地に行き、支援に参加できるウィークエンド・ボランティア制度を始める一方、被災女性らの要望を細かく聞いた。

そして、授乳や着替えが安心してできるよう宮城県南三陸町などの避難所に仕切りを設置。8月には地元ボランティアと協力して化粧品や裁縫箱を届けた。また、国連児童基金(ユニセフ)が海外で設置しているプレハブの幼稚園を岩手県大槌町や福島県いわき市の避難所など9カ所に造る活動にも協力している。

毎週のように被災地を訪れている高須さんは、先の見えぬ生活の中、自分をかけがえない存在として肯定できる環境や支援が必要、という。「つまり、生きていてよかったな、と思えること。一人でも多くの被災者の方がこう思えるよう最善を尽くします」と力を込めている。